

## サイエンスカフェ講師登録一覧

- ・日本学術会議ではサイエンスカフェを実施する団体へ講師派遣の協力をしています。
- ・講師への依頼を検討されている方は、事務局までご相談下さい。

平成29年2月14日現在

【担当】日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）付 大橋・大庭・石尾  
 TEL : 03 (3403) 1082 FAX : 03 (3403) 1640

	所属部	氏名	ふりがな	職名	専門分野	予定タイトル
1	連携会員 (22-23期)	鈴木興太郎	すずむら こうたろう	早稲田大学政 治経済学術院 名誉教授、栄 誉フェロー、 日本学士院会 員	厚生経済学と社会的選択の理論、福祉経済学と 経済政策論	1) 競争の論理と倫理 2) 公共の福祉と私的な権利の社会的尊重 3) 社会的選択の作法
2	連携会員 (23-24期)	長谷川寿一	はせがわ としかず	東京大学大学 院総合文化研 究科教授	(ヒトを含む) 動物行動学・動物認知科学・進 化人類学 「人間とは何か」という古来よりの問題に、 「ヒトは一介のチンパンジーにすぎない。しか し、ヒトは特別なチンパンジーである」という 立場からお話しします。	1) 「ヒトはどのように特別なチンパンジーか」 「心の進化：人間性はどのように生まれたの か」 2) 「男と女—オスとメス：動物行動学の視点か ら」 3) 「戦争と平和：進化人類学的考察」 4) 「ゾウ学事始め」 5) 「イヌの科学：進化・行動・心理・人の関 係」
3	連携会員 (23-24期)	大隅 典子	おおすみ のりこ	東北大学大学 院医学系研究 科教授	脳の発生、発達と維持について、遺伝的な影響 と環境的な影響について研究しています。神経 幹細胞からどのようにして神経細胞やその他の 細胞が生まだされるかを明らかにすることによ り、記憶や学習との関係について調べていま す。	1) いくつになっても脳細胞は作られる！ 2) 脳に良い栄養とは？ 3) 自閉症の発症機序
4	連携会員 (23-24期)	家 泰弘	いえ やす ひろ	東京大学物性 研究所教授	物性物理学	1) 物性科学はじめの三歩 2) 量子の世界 3) 科学の見方、科学の見方 4) 磁石、磁力、磁場—魔術から現代科学への道 程 5) 物理学的世界観の形成 6) 女性科学者列伝 7) 本邦の科学者たち
5	連携会員 (22-23期)	仙田 満	せんた み つる	放送大学客員 教授、環境デ ザイン研究所 会長	環境デザイン学、建築学、都市計画学	1) 人を元気にする空間、都市を元気にする構 造 2) こどもの成育環境 3) 人を元気にする住まいづくり 4) 廊空間の歴史と展望 5) 地球環境建築のすすめ
6	連携会員 (22-23期)	佐藤 勝彦	さとう か つひこ	自然科学研究 機構 機構長	宇宙物理学・宇宙論：宇宙を構成する天体の起 源や進化、またあらゆる物的存在を含む宇宙の 起源をもっともミクロの極限である素粒子の物 理学で解明しようとする研究を進めている。特に 宇宙の創生、暗黒物質、暗黒エネルギー、超高 エネルギー宇宙線、元素の起源、星の進化、超 新星爆発、ブラックホール、中性子星、ガン マー線バースト天体の研究を進めている。	1) 宇宙の誕生と未来 2) 宇宙の創生とマルチバース、人間原理 3) 超新星爆発とニュートリノ 4) 暗黒物質と暗黒エネルギーの謎
7	連携会員 (22-23期)	田中 英彦	たなか ひ でひこ	情報セキュリ ティ大学院大 学学長、教授	情報システム、情報セキュリティ、ディペンダ ブルシステム	1) 情報セキュリティ問題とその対策 2) 情報システムの高信頼化とディペンダビ リティ
8	連携会員 (23-24期)	眞鍋 昇	まなべ の ぼる	東京大学名誉 教授	わが国では家畜を飼養するために毎年2,000 万トン以上の飼料を輸入し、1億トン以上もの 糞尿を排泄し続けていますが、適切に処理され ているとは言い難い状態です。糞尿を介して家 畜から人、人から家畜、家畜から家畜に様々 な感染症が伝播します。従来病原性微生物を抗生 物質などを用いて死滅させる過程で耐性菌が出 現して大きな社会問題を引き起こしてきました。 微生物の力で110℃以上の高温発酵を実現し、 それで病原性微生物を死滅させる好気性 超高熱発酵についてお話しします。	1) 「臭いものは元から絶たなくてはダメ」：1 10℃以上で病原体を死滅させる好気性超高温 発酵 2) 「環境微生物の底力」：110℃以上の超高 温発酵を達成 3) 「衛生管理」：好気性超高温発酵による糞尿 媒介感染症を統御する技術

9	第三部	土井美和子	どい みわ こ	国立研究開発 法人情報通信 研究機構監 事、株式会社 国際電気通信 基礎技術研究 所客員研究員	情報学、 ヒューマンインタフェース（使いやすさの研究）、 ロボットインタフェース（ロボットを端末として使うインタフェースの研究）	1) ケータイでの道案内サービス 2) 見えないコンピュータが支える日々の暮らし 3) 一人暮らしも寂しくない—ロボットが仲介するコミュニケーション
10	連携会員 (23-24期)	大津由紀雄	おおつ ゆ きお	明海大学副学 長・外国語学 部教授、慶應 義塾大学名誉 教授	言語学、認知科学、言語教育、科学教育 言語 (ことば)の視点から心の探究(認知科学)を しています。主たる領域は母語の獲得と言語理 解です。その研究成果を元に、言語教育(政 策)や科学教育についても積極的に発言してい ます。	1) ことばの世界を探る—そのおもしろさと奥 深さ 2) ことばからみた心—言語知識とその獲得 3) 母語教育(国語教育)と外国語教育(英語教 育)の連携—言語教育の構想 4) 言語学で科学の方法を教える
11	連携会員 (23-24期)	大久保泰邦	おおくぼ やすくに	国立研究開発 法人産業技術 総合研究所地 圏資源環境研 究部門テクニ カルスタッフ	(1) 火山や地殻熱流量などの地球の熱史を解 明と地熱資源の有効利用 (2) エネルギー資源の有限性に関する研究 (3) 科学政策評価 (4) 物理探査	1) 地球温暖化と石油ピーク 2) 地熱資源探査とそのポテンシャル 3) 石油文明と脱石油社会のあり方 4) 科学政策の進め方
12	連携会員 (22-23期)	新川 詔夫	にいかわ のりお	北海道医療大 学学長	人類遺伝学、遺伝医学、分子遺伝学、ゲノム医 学、先天異常学	1) 乾型耳あか型と東アジア人のグレートジャー ニー 2) 先天性症候群と原因遺伝子の発見物語
13	連携会員 (23-24期)	沼田 英治	ぬまた ひ ではる	京都大学大学 院理学研究科 生物科学専攻 教授	動物生理学・行動学	1) 都市の温暖化とセミ 2) 虫とともに生きる 3) 生きものが季節を知るしくみ 4) 生物時計の話
14	連携会員 (22-23期)	小山 勝二	こやま か つじ	京都大学名誉 教授	X線観測をもとに宇宙の高エネルギー活動の研究 を行っている。 具体的には (1) 超新星における元素の合成、宇宙空間 への拡散 (2) 超高エネルギー粒子(宇宙線)の生成 と加速機構 (3) 天の川の中心部の高エネルギー活動性 (例:過去の大爆発など) (4) 宇宙の極限プラズマの診断 (5) 歴史における超新星爆発 (6) 宇宙X線観測装置(人工衛星もふく む)の開発 (7) その他	1) 天空を駆けるX線—元素の合成と輪廻— 2) 宇宙で最高エネルギーの粒子はどこで、ど のように作られる? 3) X線で追跡する天の川中心のブラックホール 大爆発 4) X線衛星をつくって、目に見えない宇宙を 診よう 5) 超新星でたどる京1000年の歴史散歩道
15	連携会員 (22-23期)	柴田 徳思	しばた と くし	公益社団法人 日本アイソ トープ協会専 務理事	大学院から助教授までは原子核物理の実験的研究 を行っていました。その後、東京大学原子核 研究所で計画された大型ハドロン計画の放射線 安全対策に携わりました。この計画がJ-P A R C(高エネルギー加速器研究機構と日本原子 力研究開発機構の巨大加速器施設の共同プロ ジェクト)となって実現することになり、J-P A R Cの放射線安全対策に携わりました。こ の間、放射線の利用や影響について興味を持 ち、放射線の利用や放射線の影響などに関連し たやさしいお話ならすることができます。	1) 放射線の産業分野での利用 2) 放射線の医療分野での利用 3) 放射線とは、放射線の影響について
16	第三部	高原 淳	たかはら あつし	九州大学先導 物質化学研究 所長・主幹教 授	プラスチック、繊維、ゴムなどの高分子材料の 化学	1) ソフトマテリアルってどんなもの 2) 自然から学ぶ高分子材料の化学 3) 身の回りの材料の化学
17	第三部	須藤 靖	すとう や すし	東京大学大学 院理学系研究 科教授	宇宙論、太陽系外惑星	1) 太陽系外惑星から宇宙生物学へ 2) 宇宙を知り世界を知る 3) 加速する宇宙論 4) 世界は法則に支配されているか 5) 科学とはどのような営みか

18	連携会員 (22-23期)	鈴木 康弘	すずき や すひろ	名古屋大学教 授	活断層学・ハザードマップ論・地理学	1) 活断層と地震防災 2) ハザードマップ
19	第三部	氷見山 幸 夫	ひみやま ゆきお	北海道教育大 学名誉教授	地球人間圏科学、環境地理学、環境教育、地図 教育、土地利用変化	1) 地球人間圏科学（防災、地球環境問題、 フューチャー・アースなど） 2) 地理学（地理学の基礎と応用、地理教育な ど） 3) 環境地図教育（小中高対象の環境教育、地 図教育の実践など） 4) 土地利用変化（全般、LUCCやGLPなどの国際プ ログラムに関する事など） 5) 国際地球理解年(International Year of Global Understanding)に関する事全般
20	連携会員 (22-23期)	帰山 雅秀	かえりやま まさひで	北海道大学国 際本部特任教 授	生態学	1) サケから学ぶこと（サケの生活史ー落ちこぼ れ戦略） 2) あなたがいるから、私も生きていける（サケ の果たす生態系サービス） 3) サケが森を育てる（サケによる海ー陸生態系 の連環）
21	連携会員 (22-23期)	續 輝久	つづき て るひさ	九州大学大学 院医学研究 院教授	分子遺伝学、放射線生物学	1) 遺伝子と疾患（病気）ーがんは遺伝子の病 気ー 2) 放射線・放射能とは？ そしてその生物（ヒ ト）への影響は
22	連携会員 (23-24期)	加藤 久典	かとう ひ さのり	東京大学総括 プロジェクト 機構特任教 授	食品の機能性について、食品成分が遺伝子の働 きに及ぼす影響について、胎児期の栄養と出生 後の生活習慣病の関係について、個人の遺伝子 と食べ物の作用の関係について	1) 遺伝子の個人差と疾患や栄養の関係 2) 妊娠期の栄養悪化が子供の生活習慣病のリス クを高める 3) 食品の機能を遺伝子の働きから調べる
23	連携会員 (23-24期)	有田 正規	ありた ま さのり	大学共同利用 機関法人情 報・システム 研究機構国立 遺伝学研究所 教授	バイオインフォマティクス、システム生物学、 メタボロミクス、計算機を用いた生命科学一般	1) コンピュータが明らかにするゲノム（遺伝 子）情報の内容 2) 天然化合物や遺伝子の観点からみた生態系、 地球環境 3) 我々の食品にはどのような化合物が入ってい るか
24	連携会員 (22-23期)	小口 高	おぐち た かし	東京大学空間 情報科学研究 センター教授	地形学・地理情報科学	1) 地理情報システム（GIS）の概要 2) 測定の発展と地形研究
25	連携会員 (22-23期)	大柴 小枝 子	おおしば さえこ	京都工芸繊維 大学大学院工 芸科学研究科 教授	ICT、光ファイバ通信、可視光通信、インター ネット	1) 光で繋がるネットワーク 2) 「情報」と「通信」のしくみ
26	連携会員 (22-23期)	内田 伸子	うちだ の ぶこ	十文字学園女 子大学特任教 授、お茶の水 女子大学名誉 教授	発達心理学・認知心理学・言語心理学・保育学	1) 考える力を育むことばの教育ー論理科カリ キュラムの開発 2) 創造的想像力を育む保育者の役割ー子ども中 心の保育での援助やことばかけをめぐって 3) 子どものウソは「嘘」か？ー創造・語り・想 起のメカニズムからの考察 4) 子育てに「もう遅い」はありませんーどの子 も伸びる共有型しつけのススメ 5) リスク社会のコミュニケーション力を育てる ーグローバル社会を生き抜く会話の方法
27	連携会員 (23-24期)	原田 悦子	はらだ え つこ	筑波大学人間 系心理学域教 授	認知心理学、認知科学、認知工学	1) 使いやすさの心理学：なぜ使いやすいものと 使いにくいものがあるのか？ 2) 認知的加齢と生活：健康に年を取ることで 「頭の中の働き」はどう変わるのか 3) 人の生活・安全とモノのデザイン：モノの デザインが人の頭の働きに影響を与えていると いうこと

28	連携会員 (23-24期)	美宅 成樹	みたく し げき	公益財団法人 豊田理化学研 究所客員フェ ロー	生物物理とバイオインフォマティクスの境界領 域 ・「モダンアプローチの生物科学」という本を 2015年11月末に出版します。その本では、生物 を対象としたかなり広いジャンルをカバーしま した。特に以下のような内容で特徴があると考 えています。 ・タンパク質などの立体構造と生体機能は非常 に重要です。しかし、アミノ酸配列とタンパク 質のグローバルな構造や機能部位の詳細な構造 との関係について、まだ科学的な理解が十分進 んでいるとは言えません。そうした生物の分子 的な側面を解明する手立てについて話ができま す。 ・ゲノムは生物の設計図です。そして、DNA塩基 配列が大量に解析されつつあります。そして、 「カエルがカエル」という言葉が示すように、 ゲノム配列は生物のシステムをちゃんと作る設 計図でもあります。しかし、「何故、より単純 な生物からカエルまで進化できたか？」とい うような単純だが大きな疑問を、私達はまだ科 学的に答えられない状況です。そうした生物の基 本問題を考える手立てについてお話すること ができます。	1) 生物の分子は、遠近両用メガネで見るのが良 い 2) 生物はイカサマのサイコロを振り、コピー ペーストで高度化している
29	連携会員 (22-23期)	入村 達郎	いりむら たつろう	順天堂大学医 学部客員教授 (生化学第一・乳 腺内分泌外科学)	生化学・免疫学・腫瘍生物学	1) 糖鎖の生物学的な役割と創薬 2) 癌の生物学の進歩とがんに対する薬の変遷 3) レクチンとは何か：その免疫学的な意義
30	連携会員 (23-24期)	西 真弓	にし まゆ み	奈良県立医科 大学医学部医 学科第教授	神経内分泌学、神経解剖学、脳のホルモンにつ いて	1) 脳とストレス 2) 脳の性差
31	連携会員 (22-23期)	高濱 洋介	たかはま ようすけ	徳島大学疾患 プロテオゲノ ム研究セン ター教授	免疫学	1) 免疫学のおもしろさと大切さ 2) これからの医療と免疫
32	連携会員 (22-23期)	仁平 義明	にへい よ しあき	白鷗大学教 授、東北大学 名誉教授	応用認知心理学	1) 常識とちがう心理学 2) ほんとうの交渉力を育てる 3) 顔の心理学
33	連携会員 (23-24期)	高倉 浩樹	たかくら ひろき	東北大学東北 アジア研究セ ンター教授	人類学、シベリア研究	1) 北極圏トナカイ遊牧民への旅ー毛皮民具の手 ざわりとともに 2) 漂流民の記録からみえてくるシベリア民族 学ー歴史と現在
34	連携会員 (23-24期)	池田 和隆	いけだ か ずたか	公益財団法人 東京都医学総 合研究所精神 行動医学研究 分野長	脳と神経の薬	1) 痛み止めの効きやすさを予測する 2) 意外と身近な依存症 3) ドーパミンについてもっと知ろう！
35	連携会員 (23-24期)	岡本 尚	おかもと たかし	名古屋市立大 学大学院医学 研究科教授	感染症、分子医学	1) 身近に迫る致死性感染症 2) バイオテロの懸念を払拭する病原体研究 3) エイズウイルスの息の根を止める治療戦略
36	連携会員 (22-23期)	窪菌 晴夫	くぼぞの はるお	大学共同利用 機関法人人間 文化研究機構 国立国語研究 所教授	日本語の音声・発音	1) 音声（発音）からみた日本語の特徴 2) 日本語の方言とコミュニケーションの問題 3) 若者言葉とコミュニケーションギャップ
37	連携会員 (22-23期)	犬竹 正明	いぬたけ まさあき	東北大学名誉 教授	プラズマ科学（プラズマ物理、プラズマ応用、 プラズマエンジン、核融合プラズマ）	1) 自然界の”プラズマ”を理解し、その応用を 考える 2) ”はやぶさ”はなぜイオンエンジンを使った のか？ 3) 地上の星”核融合炉”を実現するには？

38	連携会員 (23-24期)	反町 典子	そりま ちのり こ	国立研究開発 法人国立国際 医療研究セン ター研究所・ 分子炎症制御 プロジェクト 長	免疫学	1) からだを守る免疫の仕組み 2) がんから身体を守る細胞たち 3) からだはどのように細菌やウイルスの侵入を 知るのか？
39	連携会員 (23-24期)	安村 誠司	やすむら せいじ	福島県立医科 大学医学部公 衆衛生学講 座・教授	公衆衛生学、老年学（含む、介護予防）・高齢 者保健、疫学、生活習慣病予防、政策科学・健 康管理	1) 高齢者における介護予防 2) 生活習慣病の予防
40	連携会員 (23-24期)	合田 裕紀 子	ごうだ ゆき こ	理化学研究所 脳科学総合研 究センター・ 副センター 長・シナプス 可塑性回路制 御研究チー ム・シニア チームリー ダー	神経細胞学・神経伝達	1) シナプスで会話するニューロン 2) つぶやくシナプスから記憶まで